

第5学年 明倫（明倫の里学習）学習指導案

学習指導者 増井 泰弘
玉井 千恵

- 1 単元名 住みやすい町わたしたちの城北校区～地域で活躍している人～
ボランティア協議会の方にインタビューしよう

2 単元について

(1) 単元設定の意図

児童は、これまで3年生の時に、「明倫の里・コマーシャル大作戦」のテーマのもと、お城や校区を中心とした場所を探検し、よさを見つけ、取材し、新聞を作成したりコマーシャル（ビデオクリップ・4コマスライドものがたり）を作成したりし、ポスターセッションやWebサイトを通して発表する活動を行ってきた。また、4年生の時には、「われら土器川探検隊」のテーマのもと、校区を流れ、香川県で唯一の1級河川である土器川を探検・調査し、すてきなところを見つけるとともに、環境問題をはじめとする様々な問題について考え、それらを発信するためにスライドを作成し、プレゼンテーションを行うなどの活動をしてきた。そうした中、部落問題学習の観点から、二軒茶屋総合センターを何度か取り上げ、センターの方へのインタビューを通して、施設の役割そして、センターの方や学習会に参加する児童が、差別をなくすためにがんばっていることを学んできた。これらの活動を通して学んできたことをもとに、本単元「住みやすい町わたしたちの城北校区～地域で活躍している人～」を設定した。住みやすい町をめざしてがんばっている人について調べる中で、いろいろな立場の人ややさしい町づくりにがんばっているボランティア協議会の方、二軒茶屋総合センターの方にインタビューし、調べたことを話し合い、わかったことをまとめる。さらに自分たちにできるボランティア・住みやすい町にするために自分たちにできることを見つけ取り組む。こうした活動を通して、自分をあらためて見つめ直す。未来を生きる子どもたちにとって大変価値のあるものと考えている。

(2) 児童の実態

人を大切にする学習の視点から

児童はこれまで、二軒茶屋総合センターは、差別をなくすために頑張っているところ、学習会に参加している児童も、差別をなくすために頑張っているということを学習してきた。共に、みんな住みやすい町をめざしてがんばっている、いろいろな立場の人にやさしい町づくりにがんばっているという5年生での学びにつながっている。いろいろな立場の人にやさしい町にするために、自分にできることはないか考え、みんなが住みやすい町にするために自分たちにできることを実際に行動することで、浅くなりがちな学習を本当の意味での人を大切にする学習に迫らせる。

学び合いの視点から

高学年になり、調べるといった活動により積極的に取り組むことができるようになってきた。何人かと協同で調べを進めるということが普通に見られるようになってきている。また、ペアを中心とした話し合い活動にも積極的に取り組むことができている。しかし、話し合ったことや学んだことを全体の場で発表することに関しては、積極的な児童と消極的な児童の差が年々顕著になってきている。学び合いによる学習がようやく定着してきた中、児童の考えや思いを如何に引き出し、全体の場での共有化を図るかが課題である。

(3) 指導・支援の工夫

人を大切にする学習の視点から

ひまわりセンターの施設調べ、ボランティア協議会の福田さんへのインタビューを通して学んだことをただ単に羅列するのではなく、自分の思いや考えをどう表現するか。学び合いの中で行われる相手への助言・アドバイスを通じて、自分の考えを見つめ直すといった活動を通して、生き方を考える力を養いたい。

学び合いについて

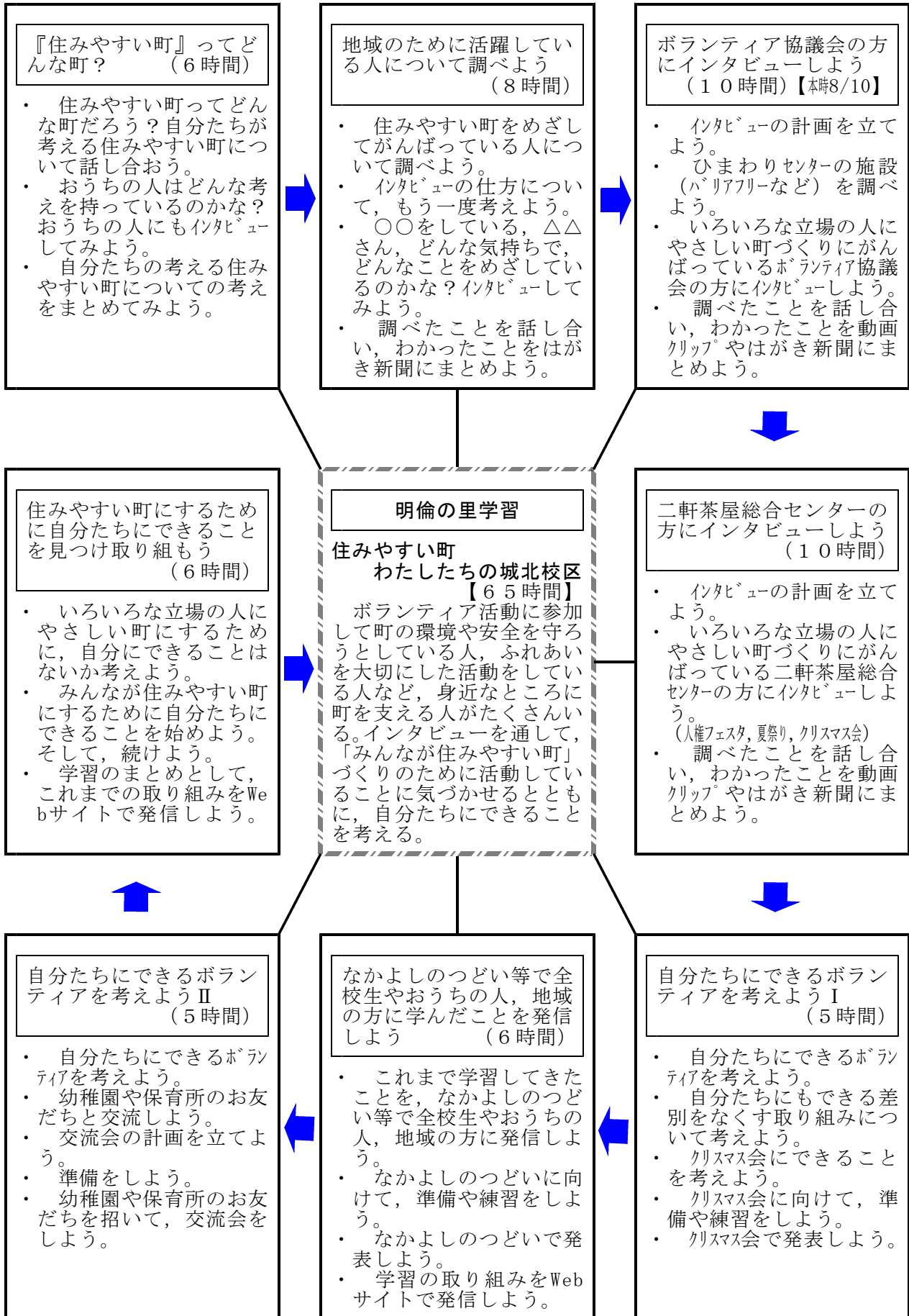
ひまわりセンターの施設調べ、ボランティア協議会の福田さんへのインタビューを通して学んだこと、話し合ったことを動画クリップやはがき新聞にまとめる。ここでは、クラスを解体したまとめ方によるコース別学習を行う。まとめ方に違いはあるものの、自分の思いや考えを動画クリップコースでは、ナレーションに、はがき新聞コースでは、社説として表現する。キューシートや下書きをもとに、自分の思いや考えを相手に説明する。それを聞いて、相手に助言・アドバイスをを行うといった学び合いの場を設定する。この学び合いを通して、どれだけ本音に迫ることができるかがポイントになるものと考えている。学び合いに教師も積極的に係わる中で、児童の本音を引き出すことができればと思う。

3 単元の目標

(1) 目標

- ボランティア活動に参加して町の環境や安全を守ろうとしている人、ふれあいを大切にしている活動をしている人など、身近なところに町を支える人がたくさんいる。インタビューを通して、「みんなが住みやすい町」づくりのために活動していることに気づくとともに、自分たちにできることを考えることができる。

4 単元構想 (全65時間)



5 本時の構想

(1) 目標

- ・ ひまわりセンターの施設調べ、ボランティア協議会の福田さんへのインタビューを通して学んだこと、話し合ったこと、自分の思いや考えを動画クリップのナレーションやはがき新聞の記事・社説として表現する。
- ・ 学び合いを通して、自分の考えを見つめ直し、自分が本当に伝えたいことは何なのかを考え、構成を見直す。

(2) 展開(◆:「学び合い」のための支援、黒太枠で囲んだ所:「学び合い」の中心場面)

学習活動	予想される児童の意識の流れ	◇◆教師の支援☆評価		
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する</p> <p>2 学び合いを通して表現を練り直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ タイトル ・ 写真 ・ キャプション ・ ナレーション ・ 構成 <p>3 動画クリップはやはがき新聞を作成する。</p> <p>4 本時を振り返り、次時の学習課題を確認する。</p> <p>考えをもつ 広げる・深める 振り返る</p>	<p>ひまわりセンターの施設調べ、ボランティア協議会の福田さんへのインタビューを通して学んだこと、話し合ったことを動画クリップやはがき新聞にまとめよう。</p> <p>前時は、ペアの友だちと学び合いをしたよ。自分の思いや考えを相手に説明したよ。ペアの友だちからは、「○○をもっと工夫したらいいよ」といったアドバイスをもらったよ。</p> <p>学び合いを通して、自分が本当に伝えたいことは何なのかを考えて、表現・構成を見直そう。</p> <table border="1" data-bbox="478 996 1021 1064"> <tr> <td data-bbox="478 996 742 1064">動画クリップ</td> <td data-bbox="742 996 1021 1064">はがき新聞</td> </tr> </table> <p>・ タイトルはこれでいいかな。 ・ 写真とキャプションがあってないよ。 ・ もっといい写真はありますか？ ・ このナレーションでは、○○さんの言いたいことが伝わってこないなあ。 ・ 写真の順序を変えてみたらどうなるかな。 ・ 見る人を引きつけるような、インパクトのある構成に工夫してみてもいいかな。</p> <p>・ 新聞の名前をもっと工夫してもいいかな。 ・ 読み手を引きつけるような見出しに変えてみよう。 ・ 記事と写真はあっているかな？ もっといい写真はないかな。 ・ この記事では、○○さんの言いたいことが伝わってこないなあ。 ・ 全体のレイアウトはこれでいいかな。カットや飾り罫を工夫してもいいね。</p> <p>○○さんからのアドバイスを参考にしたり、○○さんのいいところ、工夫しているところを取り入れて、ブラッシュアップしよう。</p> <p>福田さんが私たちに本当に伝えなかったことは何だったのかな。インタビューを通して学んだことをもう一度確認してみよう。</p>	動画クリップ	はがき新聞	<p>◇ 動画クリップコース…キューシートをもとにしたワークシート、はがき新聞コース…下書きをもとにしたワークシートをそれぞれ用意しておく。</p> <p>◇ 前時の終わりに隣同士ペアを中心とした学び合い学習を行う。本時の学習の流れ学び合いのパターン(交流の仕方・手順など)を確認しておく。</p> <p>◇ 学び合いは、いつでもどこでも誰とでもが基本ではあるが、グループは、子どもの人間関係に配慮した構成で進める。</p> <p>◇ 自分が作品づくりを通して一番伝えたいことは何なのかをポートフォリオをもとに再確認することで、これからの活動のねらいを明確化する。</p> <p>◆ キューシートや下書きをもとに、自分の思いや考えを相手に説明し、それを聞いて、相手に助言・アドバイスをを行う。2色の付箋紙を活用し、助言・アドバイスが残るようにする。</p> <p>☆ ペアの友だちの作品のいいところやもっとよくしたいところを見つけ伝えることができたか。</p> <p>◇ 教師も学び合い積極的に係わり、思いを具体的に表現できるよう助言する。また、上手に工夫しているところは賞賛し、他の児童にも紹介することで他者受容感を高める。</p> <p>◇ グループで活動することによって、お互いのよさを取り入れてブラッシュアップを行う。自分の思いを言葉で表現し、友だちの思いを汲み取る。学び合いを通して、作品をよくよいもの仕上げていくことができるように促す。</p> <p>◇ 友だちからの助言・アドバイスや友だちの作品のいいところを参考にキューシート・下書きのブラッシュアップを行うようにする。</p>
動画クリップ	はがき新聞			